

2017年の春、飯田橋と市ヶ谷間の見事な桜を見ながら、ベートーヴェン全曲演奏を決意しました。

室内楽仲間の中野洋子さんに相談したところ、快く共演を引き受けて下さいました。

現在の自分が是非やっておきたいことはなんだろう、自問自答を重ねるうち、心の中から浮かび上がってきたもの、それは「ベートーヴェン」でした。彼の音楽には昔から強く心惹かれていました。

今回、彼の若い頃から晩年までの全10曲の「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ」を通じて、偉大な芸術家そして悩み多き一人の人間としてのベートーヴェンを音として表現し、皆様と共に味わいたいと願っています。それに私たちの人生の来し方を重ね合わせつつ・・・

二人でベートーヴェンの世界に遊び、楽しんで練習を重ねています。

石井 志都子

石井志都子さんとは、これまでモーツァルトからバルトークまで、たびたび室内楽で共演してきました。その音楽家としての在り方に、いつも尊敬の気持ちを持っています。

このたび、ベートーヴェンの「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ」全曲と一緒に勉強する機会をいただき、大変嬉しく思っています。彼女の考えに基づき、作曲年代により3回に分けての公演としました。今回は第1回としてNo. 1～No. 5を演奏いたします。そして第2回No. 6～No. 8は2018年の秋、第3回No. 9、No. 10は2019年の春を予定しております。ほぼ1年にわたる息の長いプログラムになりますが、私たちにとりましても、ベートーヴェンと深く会話をする貴重な時間になると思います。彼の生涯の各時期に思いを馳せながら、各回お聴きいただけましたら幸いです。

中野 洋子

ヴァイオリン 石井 志都子



山口県出身。6歳で父、故石井洋之助氏にヴァイオリンの手ほどきを受ける。10歳で第6回全日本学生音楽コンクール小学校の部全国第1位を受賞。13歳で第24回日本音楽コンクール第2位受賞。中学3年で単身上京。桐朋女子高等学校音楽科に入学。故鷺見三郎氏に師事。

高校1年で海外派遣コンクールで日本代表に選ばれ、フランスのロン＝ティボー国際コンクールに出場、日本人として初めて第3位入賞。バガニーニ国際コンクールでも第3位入賞。パリ国立音楽院に入学。故ガブリエル・ブイヨン氏に師事。

1年後、首席で卒業。その後、同音楽院のオーケストラのコンサートミストレスを務めるかわら、ヨーロッパ各地でオーケストラとの共演やリサイタルを依頼される。

25歳で帰国。数多くのオーケストラと共演、リサイタルを開催。NHKのテレビ番組《バイオリンのおけいこ》に数シリーズ出演。アジア各地でも演奏会を開催。蓼科高原音楽祭で40年にわたり講師を務める。

1974年より桐朋学園に勤め現在に至る。1987年より洗足学園にも務める。毎日新聞社主催全日本学生音楽コンクール諮問委員。1998年、山口県文化功労賞受賞。

ピアノ 中野 洋子



桐朋学園大学音楽学部卒業。奥村洋子、井口秋子の各氏に師事。また齋藤秀雄氏に室内楽の指導を受ける。ベルリン国立音楽大学でロタル・プロダック、ゲルハルト・プッヘルトの各氏に師事し1968年最優秀の成績で卒業。ジョイントリサイタル、コンチェルトのソリスト、リサイタル等の活動を行う。翌年の帰国後から現在まで28回のピアノリサイタルを継続して行うほか、国内外の現代曲の初演、室内楽の演奏などに意欲的に活躍。ヴァイオリン恵藤久美子氏と4回のデュオリサイタル。糸井正博、二宮和子、石井志都子、田中あや他諸氏との室内楽シリーズは現在も進行中。

2009年には演奏活動40周年を記念してシューマンの夕べ「闇を抱く光」を開催。以後、ほぼ毎年のように独自のコンセプトによる演奏会を開催している。

また、2017年まで長年にわたり桐朋学園大学音楽学部において後進の指導にあたってきた他、国内外の作曲家の演奏を収録したCD「中野洋子の世界」I～IVをリリース。八千代市勝田台において主催する「音楽室コンサート～身近にクラシック～」シリーズは140回以上に及び、心を通わせる音楽の営みの場として、多くの音楽家・聴衆の熱い賛同を得ている。



会場のご案内

ところ

ルーテル市ヶ谷センター
〒162-0842
東京都新宿区市ヶ谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8621

交通

JR	総武線	地上出口	徒歩7分
都営地下鉄	新宿線	A1 出口	徒歩7分
東京メトロ	有楽町線	5、6番出口	徒歩2分
東京メトロ	南北線	5、6番出口	徒歩2分